



# 生物人類学、生物考古学、霊長類学

いろいろな「わたしたち」の多様な  
生きざまやライフヒストリーを調べる

蔦谷 匠 助教  
Takumi Tsutaya

## 研究キーワード

自然人類学、生物考古学、霊長類学、安定同位体分析、古代プロテオミクス分析、フィールドワーク、ライフヒストリー、オランウータン、R言語、チンパンジー、古代DNA分析



経歴

東京都立大学・理学部卒。東京大学大学院・新領域創成科学研究科修了。日本列島の過去の授乳習慣の復元の研究で生命科学博士取得。専門は自然人類学。京都大学、海洋研究開発機構でのポストを経て、2020年より現職。趣味は海外文学と自転車。

## 所属学会

日本人類学会、日本霊長類学会

## 志望者へメッセージ

本研究室には以下4点の特徴があります。進学や研究員に興味を持たれた方はお気軽にご連絡下さい。

1. 調査地でのフィールドワークから実験室でのラボワークまで、様々なアプローチが利用できます。
2. 人類の進化・適応を核とする研究課題に挑んでいます。
3. 分野横断的・文理融合的で、多様な研究分野を横断した議論ができます。
4. 研究と人生の両立を本気で支援します。

### E-mail

tsutaya\_takumi@soken.ac.jp

### URL

<https://sites.google.com/view/anthr/>

### 研究詳細QR



分野横断・文理融合的にさまざまな手法を利用して、いろいろな「わたしたち」(ホモ・サピエンスや進化的に近い霊長類)の生きざまやライフヒストリーを復元し記述しています。

人類や霊長類の個体がどのように生まれ、成長し、毎日を過ごし、子供を産んだり産まなかったりして、そして亡くなっていったか? そうした人生を明らかにすることで、文化や自然環境の違いがわたしたちの生きざまに与える影響を調べ、ひとりひとりの生きざまの違いが長い時間軸での進化適応や大きな社会情勢にどう影響していくのかを明らかにしようとしています。具体的には、進化人類学、霊長類学、考古学などの研究分野で得られた標本や資料に対して、質量分析や古代DNA分析をはじめとした自然科学的な分析を適用することでデータを得ます。そうしたデータを、生態学、歴史学、進化学などの枠組みで解釈して議論します。これにより、熱帯雨林に暮らすチンパンジーやオランウータン、縄文時代から江戸時代までの過去のヒト、もっと昔に暮らした古人類などが、どのように生きて亡くなったかを復元したりしています。



遺跡から発掘された約1千年前のイヌの頭蓋骨



野生オランウータンのアカンボウ



安定同位体比質量分析計

## 代表的な論文、著書等

- 1 Tsutaya T. (2020). Blurred time resolution of tooth dentin serial sections. *American Journal of Physical Anthropology* 173: 748–759. doi: 10.1002/ajpa.24113
- 2 Halfman CM, Potter BA, McKinney HJ, Tsutaya T, Finney BP, Kemp BM, Bartelink EJ, Wooller MJ, Buckley M, Clark CT, Johnson JJ, Bingham BL, Lanoë FB, Sattler RA, Reuther JD. (2020) Ancient Beringian paleodiets revealed through multiproxy stable isotope analyses. *Science Advances* 6: eabc1968. doi: 10.1126/sciadv.abc1968
- 3 澤藤りかい, 蔦谷匠.(2020). 質量分析を利用したプロテオミクスの考古学・古人類学における応用. *Anthropological Science (Japanese Series)* 128: 1–19. doi: 10.1537/asj.200213
- 4 Tsutaya T, Shimatani K, Yoneda M, Abe M, Nagaoka T. (2019) Societal perceptions and lived experience: infant feeding practices in premodern Japan. *American Journal of Physical Anthropology* 170: 484–495. doi: 10.1002/ajpa.23939
- 5 Tsutaya T, Meaghan M, Koenig C, Sato T, Weber AW, Kato H, Olsen JV, Cappellini E. (2019) Palaeoproteomic identification of breast milk protein residues from the archaeological skeletal remains of a neonatal dog. *Scientific Reports* 9: 12841. doi: 10.1038/s41598-019-49183-0